

相馬市史全巻刊行記念

市史と振り返る相馬の歴史

「相馬市史」は、相馬市の市制施行50周年を記念して、平成16年（2004年）から編さん事業がスタートし、令和6年（2024年）に全ての刊行が終了しました。

市史の編さんでは、相馬市の長い歴史や文化、豊かな自然、特徴的な民俗などを後世に伝えるとともに、市民の文化振興に寄与することを目指しました。通史編・資料編・特別編の3つの柱で構成されていて、歴史だけではなく、自然、民俗など、多岐にわたる分野を専門の先生が執筆しています。特に「相馬市史第9巻特別編2民俗」は、第41回福島民報出版文化賞の「正賞」を受賞するなど、学術的にも高く評価されています。

相馬市史とともに相馬の歴史を振り返ることで、現在を理解し、未来を歩むためのヒントについて考えていくませんか？

相馬市の歴史を振り返りましょう

●旧石器時代（3万～1万2,000年前）

相馬に人類が住むようになったのは、旧石器時代からと考えられています。相馬ではまだ調査例が少なく、詳しいことは分かっていません。

●縄文時代（1万2,000年前～2,300年前）

縄文時代になると、気候が温暖になり、海面が上昇しました。現在の海岸線よりも海が内陸に入り込んでいたと考えられています。

●弥生時代（2,300年前～1,700年前）

弥生時代の遺跡は、相馬では発見例が少なく、詳しいことは分かっていません。

●古墳時代（3～7世紀）

全国で古墳が築造されるようになり、相馬地方でも古墳が作られます。中でも丸塚古墳（成田）は相馬地方を支配した有力な豪族の墓とみられ、さまざまな埴輪や祭礼具など、多くの副葬品が出土しています。



【丸塚古墳出土埴輪】
2本の角のような帽子をかぶった男性像で、武人と見られます。

●奈良・平安時代（8～12世紀）

仏教が全国に伝來した時期です。黒木田遺跡（中野）は、7世紀中ごろから9世紀中ごろにかけての遺跡で、大量の瓦が発見されています。そのため、瓦葺きの寺院跡であると考えられており、寺院跡としては県内で最も古いものの1つです。

黒木田遺跡の瓦



【軒丸瓦】
屋根の先端に使う装飾のついた瓦です。



【平瓦】
緩やかにカーブした板状の瓦で、屋根面に敷き詰められていました。

原始
・
古代

中世

●鎌倉時代～戦国時代

武士の時代となり、さまざまな勢力が相馬の支配を巡って覇権を争いました。全国の武士が北朝・南朝に分かれて争った南北朝時代には、相馬では北朝方の相馬氏と南朝方の中村氏・黒木氏らが争いました。

戦国時代になると、激しい戦いの末に相馬氏がこの地方の支配を確立しました。



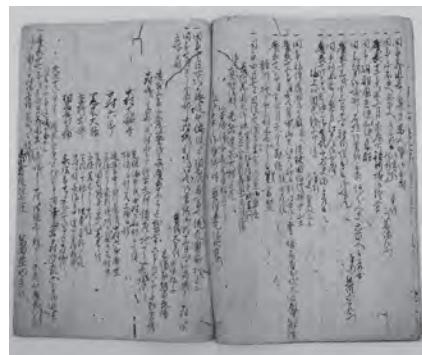
●江戸時代

相馬中村藩として、現在の相馬市域が城下町として開発され発展しました。初代藩主相馬利胤は、小高城から中村城に拠点を移し、城下町を整備しました。相馬氏は江戸時代を通してこの地を治めたため、相馬野馬追や神楽など、相馬地方に特徴的な民俗芸能や文化が現在でも多く残っています。江戸時代後期には全国的な飢饉が発生し、相馬中村藩も窮地に陥りましたが、二宮尊徳の「報徳仕法」を取り入れ、藩財政を立て直しました。

幕末の戊辰戦争では、中村藩も奥羽越列藩同盟に加わり新政府軍と戦いましたが、後に降伏し、藩領の領有権を認められました。

【利胤朝臣御年譜】

御年譜とは、特定の人物や時代の年譜を記録するための資料のことです。「利胤朝臣御年譜」には、中村藩初代藩主の相馬利胤の治世の出来事が記載されています。主な大きな出来事として、中村城の大改修、関ヶ原の戦いにおいて西軍に与したとみられたことによる領地没収の危機、慶長奥州地震津波による被害が挙げられます。

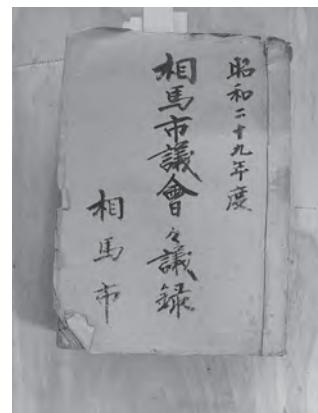


近世

●明治時代以降

明治政府により廢藩置県が実行され、中村藩は「中村県」となりました。これにより中世以来続いた相馬氏の支配は終了しました。中村県はすぐに「平県」と合併され、明治9年には現在の福島県に編入されます。明治22年に町村制が施行され、中村を中心に中村町(現在の相馬市の前身)が誕生しました。

昭和29年には市制が施行され、中村町と周辺の7つの村(大野・飯豊・八幡・山上・玉野・日立木・磯部)が合併し、現在の相馬市が形成されました。



相馬市誕生後に初めて開催された議会（昭和29年）の議事録

近代・現代

相馬の民俗 「宇多郷の神楽」

旧相馬藩領は7つの郷（宇多郷、北郷、中郷、小高郷、北標葉郷、南標葉郷、中山郷）からなります。藩主は各郷に建立した雷神社に神楽を奉納するよう命じ、相馬市では今でも各地域に神楽が伝承されています。

相馬地方の神楽は、相馬中村藩で奉納されていた当時の姿をよく残していることから、「相馬宇多郷の神楽」として、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

宇多郷神楽舞の動画はこちら



子どもの無病息災を願い、頭をかむ様子



雷神社の例大祭で奉納される神楽舞

相馬の自然

市の自然の特徴は、変化に富んだ地形と温暖な気候です。東端の太平洋、平野部の市街地、里山、渓谷、阿武隈高地など多様な環境を有しています。

市内東部は、県で唯一の汽水湖（潟湖）である松川浦があり、多くの渡り鳥が飛来します。松川浦周辺の湿地には汽水域や湿地に生息する希少な昆虫（汽水生のトンボなど）をはじめとした、多様な生物が見られます。また、江戸時代後期に藩の政策でつくられたため池は、現在も多数残っており、鳥類や水生生物の貴重なすみかになっています。

市内西部は、靈山・天明山に代表される阿武隈山系の山並みが広がっています。靈山は、長年の風化と浸食により露出した、荒々しい山肌が特徴です。山地の東部には、塩手層など古い地質時代に形成された地層が広く分布しています。

ヒカリモ（赤木）



ヒカリモは、ため池や洞窟の水たまりなどの流れが少なく気温変化が小さい水場を好む藻類で、太陽光を反射し黄色や金色に見えます。

塩手層（山上）



靈山の東側に分布する中新世（約2,000万年前）の地層であり、かつて浅い海か湖沼の環境であったことを示しています。また、植物の化石も多数見つかっています。

相馬市史の見どころ

相馬市史編さんに関わっていただいた、市文化財保護審議会の岩崎真幸会長に話を伺いました。



岩崎真幸会長

——相馬市史全巻刊行まで編さんに関わられた感想をお聞かせください。

相馬市史は、「時代史」の3部会と、「自然」、「民俗」、「特別編」の計6部会で編さんが進められました。そして、その編さん中に東日本大震災が起こりました。大震災は、これまで積み重ねられてきた歴史や文化、そして自然を一瞬で破壊してしまうものでした。この出来事を通じて、記録や人々の記憶が、かけがえのない財産であることを改めて痛感しました。

——これから市史を読まれる方に、一言お願いします。

相馬市史は、6つの部会が学問的な方法や手法を駆使して得た成果を収録しています。これは、あくまでも編さん時点での成果であり、今後さらに補強し、深化させていく必要があります。市民の皆さんのが市史を積極的に活用することによって、その成果はさらに充実していくでしょう。相馬市には旧市史7巻と今回の市史10巻がそろっており、これらを補完的に活用することで、地域の歴史をさらに発展・深化させていくことができると思っています。

相馬市史全巻刊行記念企画展

●相馬市ってどんなとこ？～相馬市史から見てみよう～

●期間 1月31日（土）～3月15日（日）

※歴史資料収蔵館休館日（2月23日（月）以外の月曜日および2月24日（火））を除く。

●場所 歴史資料収蔵館

●開館時間 9時～16時

●講演会＆パネルディスカッション

●日時 2月21日（土）13時～15時50分

●場所 中央公民館2階会議室

●内容 右記のとおり

○詳細はホームページを確認ください。

ホームページは
こちら



講演会

●演題・講師

- ▽「相馬市の原始・古代」玉川一郎氏（福島考古学会元会長）
- ▽「明らかになった相馬の近世社会の特質—相馬市史編さん事業の成果と課題—」齋藤善之氏（東北学院大学教授）

パネルディスカッション

●コーディネーター 岩崎真幸氏（市文化財保護審議会会長）

●パネリスト

- ▽高橋充氏（県立博物館副館長）
- ▽玉川一郎氏（同左）
- ▽齋藤善之氏（同左）

歴史とともに歩むまち相馬

市は、文化財の保護とともに資料の公開活用、教育の場の提供を通して、市民が郷土に誇りを持てるよう、さまざまな取り組みを行っています。

歴史資料収蔵館では、さまざまなテーマで年2回企画展を開催しています。今後もぜひ、歴史資料収蔵館にお越しください。

●問い合わせ先 生涯学習課（☎ 37-2100）